

株式会社 竹内製作所

2025 年 2 月期 第 2 四半期決算説明会

2024 年 10 月 22 日

イベント概要

[企業名] 株式会社 竹内製作所

[企業 ID] 6432

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2025 年 2 月期 第 2 四半期決算説明会

[決算期] 2025 年度 第 2 四半期

[日程] 2024 年 10 月 22 日

[ページ数] 26

[時間] 16:00 – 16:38
(合計：38 分、登壇：38 分)

[開催場所] インターネット配信

[会場面積]

[出席人数]

[登壇者] 2 名

取締役 小林 修 (以下、小林)

経営管理部 ESG 推進課長 阪井 大志 (以下、阪井)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



決算のポイント（2025年2月期・上期実績）

（1）販売台数は欧米ともに減少

- 北米の販売台数は **△2.5%**（1Q: +2.1%、2Q: △7.1%、対前年同期比）
住宅市場は調整局面が継続し、ミニショベルが伸び悩み
買入部品の不具合により、一部クローラーローダーの出荷が第3四半期へずれ込む
- 欧州の販売台数は **△16.2%**（1Q: △23.2%、2Q: △8.5%、対前年同期比）
住宅ローン金利の高止まりとエネルギー価格の上昇による生活費の高騰により、住宅需要が低迷
- トータル販売台数は **△11.0%**（1Q: △13.0%、2Q: △8.9%、対前年同期比）

（2）売上高、利益面ともに過去最高↓上期として（売上高は+4.2%、営業利益は+46.5%、対前年同期比）

- 販売台数の減少、原材料価格や固定費の上昇等の減益要因はあったものの、円安影響、値上げ、製品構成・顧客構成の変化等の増益要因により大幅な増益

(単位:億円)	2024年2月期(前期)						2025年2月期(当期)		
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	1Q	2Q	上期
売上高	530	521	1,051	536	537	1,074	551	544	1,096
売上総利益	129	125	255	129	136	266	157	185	342
販管費	44	41	85	43	39	82	46	48	94
うち運搬費	21	15	36	17	17	35	17	19	37
営業利益	85	84	169	86	96	183	111	137	248

小林：取締役の小林でございます。本日はお忙しい中、当社の決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

社長の竹内が本日欠席のため、代わりに私からご説明させていただきます。

それでは2025年2月期連結業績の上期実績および通期予想をご説明いたします。2ページをご覧ください。2025年2月期の上期実績につきまして、前年同期と比較したポイントをご説明いたします。

まず販売台数ですが、北米では住宅市場の調整局面が継続しており、ミニショベルの販売が伸び悩みました。クローラーのローダーに関しましても、買入部品に不具合があり生産が停滞したことにより、一部出荷が第3四半期へずれ込んだ影響で販売台数が減少いたしました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

欧州ではクローラーローダーの販売は増加しましたが、住宅金利とエネルギー価格の上昇による住宅市場の低迷が影響し、ミニショベルの販売が大きく減少いたしました。その結果、北米の販売台数は2.5%の減少、欧州の販売台数は16.2%の減少、全体では11%の減少となりました。

次に、売上高と利益につきましては、販売台数の減少、原材料価格の上昇、および青木工場の減価償却費と労務費の増加などの減益要因がありましたが、為替影響と値上げ、製品構成および顧客構成の変化などの増益要因により、売上高、各段階利益ともに上期としては過去最高となりました。

連結業績ハイライト (2025年2月期・上期実績)

単位:百万円	2024年2月期		2025年2月期				上期 期初予想	対期初予想 増減額
	上期実績	売上比率	上期実績	売上比率	前年同期 増減額	前年同期 増減率		
■ 売上高	105,176	—	109,606	—	+4,430	+4.2%	112,000	△2,393
■ 営業利益	16,969	16.1%	24,867	22.7%	+7,898	+46.5%	21,000	+3,867
■ 経常利益	17,072	16.2%	23,187	21.2%	+6,114	+35.8%	20,800	+2,387
■ 当期純利益 <small>親会社株主に帰属する</small>	12,670	12.0%	16,854	15.4%	+4,183	+33.0%	14,800	+2,054
設備投資額	4,798	4.6%	1,397	1.3%	△3,401	△70.9%	1,794	△396
減価償却費	1,285	1.2%	1,807	1.6%	+522	+40.7%	1,809	△1
受注高	87,309	—	97,311	—	+10,002	+11.5%	***	—
受注残高	172,880	—	116,602	—	△56,278	△32.6%	***	—



3

© 2024 Takeuchi Manufacturing [JAPAN], Ltd. All Rights Reserved.



3 ページをご覧ください。連結業績のハイライトをご説明いたします。

売上高は4.2%増収の1,096億600万円、営業利益は46.5%増益の248億6,700万円となりました。なお、営業利益の増減要因および受注高と受注残高につきましては、後ほどご説明いたします。

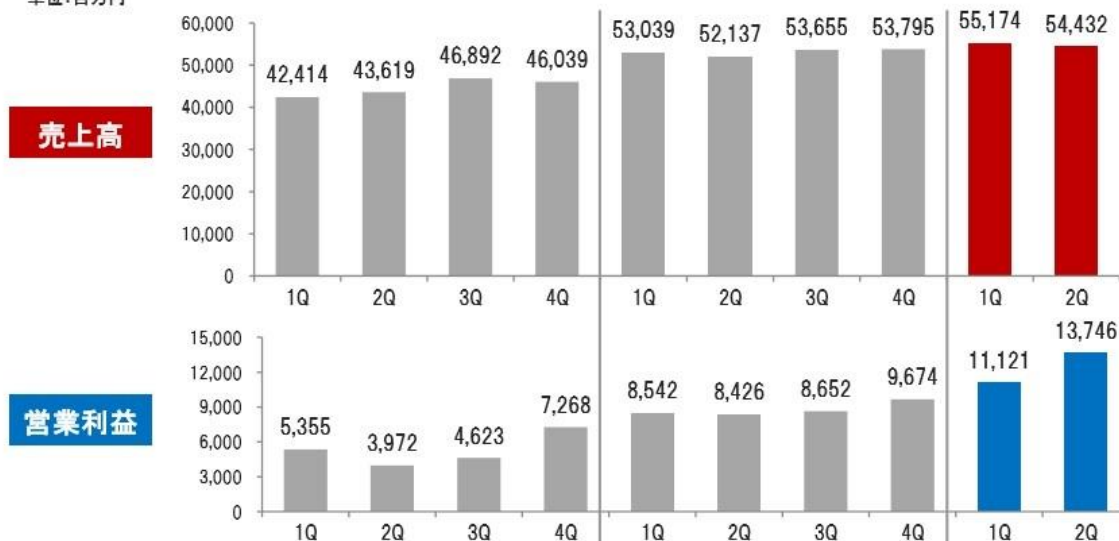
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



四半期毎の売上高・営業利益

単位：百万円



為替レート	2023年2月期				2024年2月期				2025年2月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
円/米ドル	121.43	133.43	143.54	134.12	134.74	140.48	148.62	145.93	152.45	156.84
円/英ポンド	157.87	163.51	166.55	163.00	165.80	179.25	183.10	185.38	194.22	199.39
円/ユーロ	133.83	138.77	142.85	142.51	146.10	154.14	158.55	159.56	164.58	168.43
円/人民元	18.56	19.70	20.11	19.60	19.43	19.66	20.08	20.31	20.75	21.76

4

© 2024 Takeuchi Manufacturing [JAPAN], Ltd. All Rights Reserved.



4 ページをご覧ください。四半期ごとの売上高と営業利益の推移です。

ご覧の通り、当第1四半期、第2四半期ともに営業利益は、為替が円安に推移したことや製品価格の値上げ等により高水準の実績となりました。

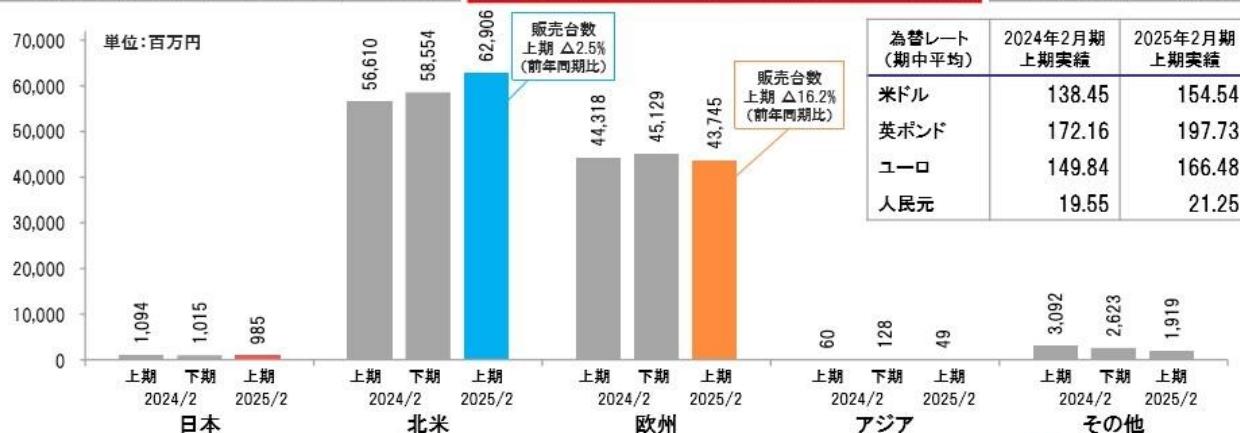
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



地域別売上高（2025年2月期・上期実績）

単位:百万円	2024年2月期		2025年2月期				上期 期初予想	対期初予想 増減額
	上期実績	構成比	上期実績	構成比	前年同期 増減額	前年同期 増減率		
■ 日 本	1,094	1.0%	985	0.9%	△108	△9.9%	680	+305
■ 北 米	56,610	53.8%	62,906	57.4%	+6,296	+11.1%	64,580	△1,673
■ 欧 州	44,318	42.1%	43,745	39.9%	△573	△1.3%	44,030	△284
■ ア ジ ア	60	0.1%	49	0.0%	△10	△18.1%	70	△20
■ そ の 他	3,092	2.9%	1,919	1.8%	△1,173	△37.9%	2,640	△720
売上高合計	105,176	100.0%	109,606	100.0%	+4,430	+4.2%	112,000	△2,393
海外売上高	104,082	99.0%	108,621	99.1%	+4,538	+4.4%	111,320	△2,698



5

© 2024 Takeuchi Manufacturing [JAPAN], Ltd. All Rights Reserved.

TAKEUCHI

5 ページをご覧ください。地域別の売上高です。

北米の売上高は 11.1%増加し 629 億 600 万円、欧州の売上高は 1.3%減少し 437 億 4,500 万円となりました。販売台数が北米では 2.5%減少、欧州では 16.2%減少いたしました。

北米の販売台数が減少しておりますが、売上高につきましては、円安の影響と製品価格の値上げ等により、前年同期を大きく上回りました。また欧州につきましては、低価格帯のミニショベルの販売が低迷していることと円安の影響等により、販売台数ほどは売上高は減少しておらず、前年同期に比べてほぼ横ばいとなりました。その他の地域につきましてはご覧の通りでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

所在地別セグメント情報 (2025年2月期・上期実績)

単位:百万円	2024年2月期		2025年2月期			
	上期実績	利益率	上期実績	利益率	前年同期増減額	前年同期増減率
日本売上高	36,166	—	33,163	—	△3,002	△8.3%
セグメント利益	12,458	34.4%	22,400	67.5%	+9,942	+79.8%
米国売上高	56,618	—	62,921	—	+6,303	+11.1%
セグメント利益	5,167	9.1%	6,975	11.1%	+1,807	+35.0%
英国売上高	7,488	—	7,346	—	△142	△1.9%
セグメント利益	842	11.2%	110	1.5%	△731	△86.8%
フランス売上高	4,867	—	6,132	—	+1,264	+26.0%
セグメント利益	520	10.7%	533	8.7%	+12	+2.5%
中国売上高	35	—	42	—	+6	+18.9%
セグメント利益	26	75.4%	192	457.4%	+165	+621.4%

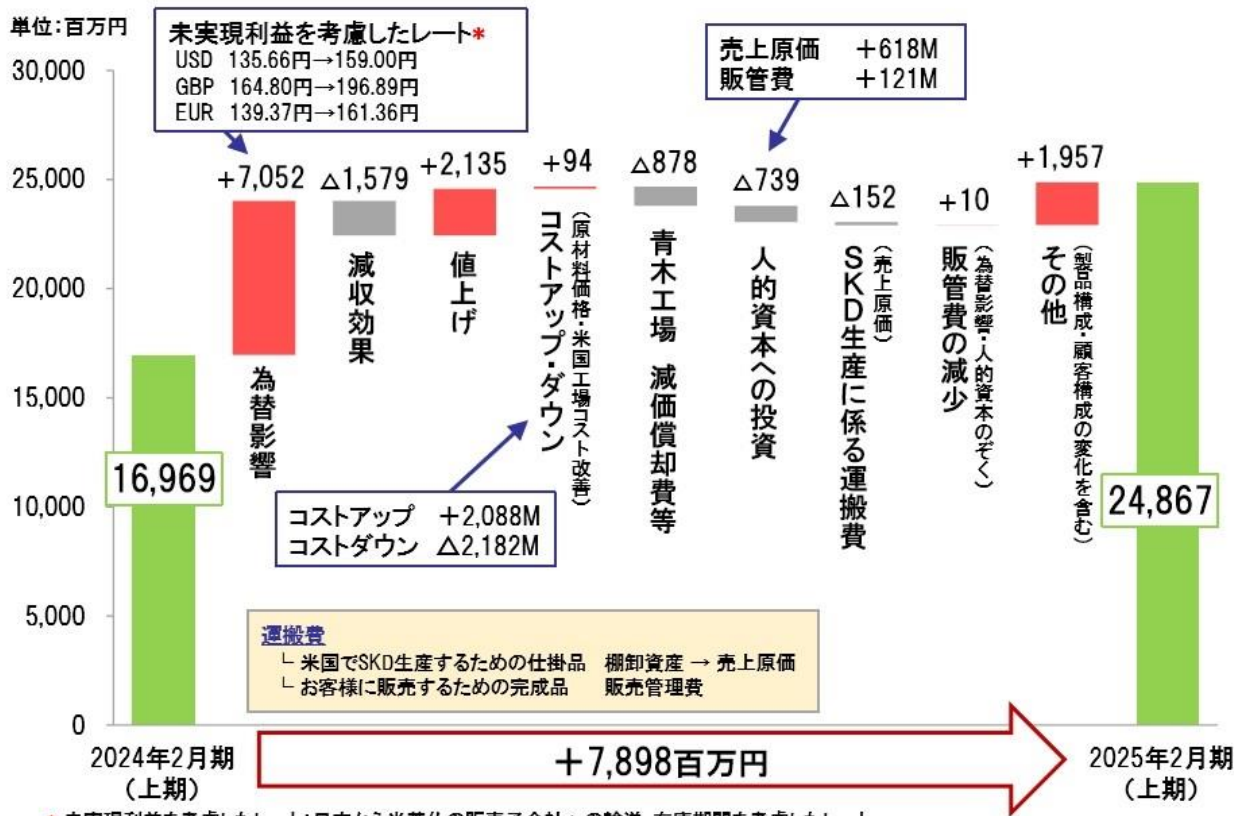
- ▶ 日本セグメント (竹内製作所)
 - ・建設機械の開発、製造
 - ・日本国内での建設機械の販売 / 欧州及びアジア・オセアニア地域のディストリビューターへの建設機械の販売
 - ▶ 米国セグメント (TAKEUCHI MFG.(U.S.),LTD.)
 - ・米国及びカナダでの建設機械の販売
 - ・建設機械の製造
 - ▶ 英国セグメント (TAKEUCHI MFG.(U.K.),LTD.)
 - ・英国での建設機械の販売
 - ▶ フランスセグメント (TAKEUCHI FRANCE S.A.S.)
 - ・フランスでの建設機械の販売
 - ▶ 中国セグメント (竹内工程機械(青島)有限公司)
 - ・中国での建設機械の販売
 - ・中国及びアジア向けの建設機械の製造
 - ・日本セグメント向けの建設機械の製品(部材)の製造、調達及び販売

6 ページをご覧ください。所在地別のセグメント情報につきましては、記載の通りでございますので、ご高覧いただきたいと存じます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

営業利益増減要因 (2025年2月期・上期実績)



7

© 2024 Takeuchi Manufacturing [JAPAN], Ltd. All Rights Reserved.

TAKEUCHI

7 ページをご覧ください。営業利益の増減要因をご説明いたします。

増益要因としましては、為替影響で 70 億 5,200 万円、売価の値上げで 21 億 3,500 万円、コストダウンでコストアップをカバーし 9,400 万円、為替影響を除いた販管費の減少で 1,000 万円、製品構成と顧客構成の変化などの影響を含むその他の要因で 19 億 5,700 万円となりました。

なおコストダウンの主な要因は、米国工場での生産台数の増加に伴うコスト改善によるものです。また減益要因では、販売台数の減少による減収効果で 15 億 7,900 万円、青木工場の減価償却費等で 8 億 7,800 万円、人的資本への投資としての主に人件費の増加で 7 億 3,900 万円、米国でのセミノックダウン生産に係る運搬費の増加で 1 億 5,200 万円となりました。

以上により、営業利益は 78 億 9,800 万円増益の 248 億 6,700 万円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

連結貸借対照表 (2024年8月31日現在)

単位:百万円

		2024年2月29日		2024年8月31日			
		残高	構成比	残高	構成比	増減額	増減率
資産の部	現金及び預金	55,175	27.8%	37,382	18.0%	△17,792	△32.2%
	受取手形及び売掛金	44,572	22.5%	51,086	24.6%	+6,513	+14.6%
	棚卸資産	58,263	29.4%	76,308	36.8%	+18,045	+31.0%
	その他流動資産	3,908	2.0%	3,771	1.8%	△137	△3.5%
	流動資産	161,920	81.7%	168,548	81.3%	+6,628	+4.1%
	固定資産	36,233	18.3%	38,801	18.7%	+2,568	+7.1%
合計		198,153	100.0%	207,350	100.0%	+9,197	+4.6%
負債・純資産の部	支払手形及び買掛金	36,381	18.4%	26,387	12.7%	△9,993	△27.5%
	その他流動負債	13,490	6.8%	14,260	6.9%	+769	+5.7%
	流動負債	49,872	25.2%	40,647	19.6%	△9,224	△18.5%
	固定負債	655	0.3%	695	0.3%	+39	+6.0%
	負債合計	50,527	25.5%	41,342	19.9%	△9,184	△18.2%
	純資産合計	147,625	74.5%	166,007	80.1%	+18,381	+12.5%
	合計	198,153	100.0%	207,350	100.0%	+9,197	+4.6%

8

© 2024 Takeuchi Manufacturing [JAPAN], Ltd. All Rights Reserved.

 TAKEUCHI

8 ページをご覧ください。連結貸借対照表です。

棚卸資産が約 180 億円増加いたしました。この主因は 3 点ございます。1 点目は、現地通貨建ての海外子会社の在庫高を円換算した際の為替影響。2 点目は、欧州向けの船便において紅海を迂回することで、物流に要する在庫期間が長期化したこと。3 点目は、販売拡大を狙い米国子会社で製品在庫を積み上げたことによるものです。

なお当第 2 四半期からは、グループ全体で製品在庫が充足してきたため、生産調整を行っております。またご参考までに、生産台数の推移を 33 ページに記載しておりますので、ご高覧いただきたく存じます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

 SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

連結キャッシュ・フロー計算書 (2025年2月期・上期実績)



営業キャッシュ・フロー		投資キャッシュ・フロー		財務キャッシュ・フロー	
	増減額		増減額		増減額
税金等調整前当期純利益	23,187	有形固定資産の取得	△1,302	配当金の支払	△7,537
減価償却費	1,807	無形固定資産の取得	△39		
棚卸資産の増加	△11,860	有価証券の償還による収入	300		
運転資金の増加	△16,769				
法人税等の支払	△8,693	その他	△37	その他	△20
その他	2,061				
合計	△10,266	合計	△1,079	合計	△7,558

9

© 2024 Takeuchi Manufacturing [JAPAN], Ltd. All Rights Reserved.

TAKEUCHI

9 ページをご覧ください。連結キャッシュフロー計算書です。

営業キャッシュフローにつきましては、棚卸資産と運転資金の増加に加え、法人税の支払いが増加したことで、102 億 6,600 万円減少いたしました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

業績予想のポイント (2025年2月期・通期予想)

単位:百万円	前回予想 (2024年4月12日公表)			修正後予想 (2024年10月10日公表)				
	上期予想	下期予想	通期予想	上期実績	下期予想	通期予想	増減額	増減率
日本	680	620	1,300	985	874	1,860	+560	+43.1%
北米	64,580	66,240	130,820	62,906	59,353	122,260	△8,560	△6.5%
欧州	44,030	42,750	86,780	43,745	43,604	87,350	+570	+0.7%
アジア	70	60	130	49	100	150	+20	+15.4%
その他	2,640	2,330	4,970	1,919	1,960	3,880	△1,090	△21.9%
売上高合計	112,000	112,000	224,000	109,606	105,893	215,500	△8,500	△3.8%
営業利益	21,000	17,500	38,500	24,867	19,632	44,500	+6,000	+15.6%
経常利益	20,800	17,700	38,500	23,187	18,812	42,000	+3,500	+9.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,800	12,700	27,500	16,854	13,145	30,000	+2,500	+9.1%

(1) 下期の製品需要

- 欧米の市場全体の製品需要は、上期と同程度を見込む
- 北米では、一部出荷が下期にずれ込んだ影響と新規顧客の獲得等により、販売台数は上向く

(2) 売上高は前回予想を下回るも、売上高、利益面ともに過去最高を予想

- 通期販売台数は前回予想比で減少、北米に一服感（北米 △13.3%、欧州 △5.3% 前回予想比）
- 各段階利益は海上運賃が想定を下回ったこと、及び円安影響で上振れ

続きまして、2025年2月期連結業績の通期予想をご説明いたします。11ページをご覧ください。2024年10月10日に、通期の業績予想を修正いたしました。その予想のポイントをご説明いたします。

下期の製品需要は欧米ともに上期と同程度と見込んでおります。北米では前回予想において販売台数の大幅増を見込んでおりましたが、市場に一服感が出たことで、通期の販売台数は前回予想に比べて13.3%減少すると予想しております。

欧州では前回予想においても、ミニショベルを中心に販売台数の大幅減を見込んでいましたが、通期の販売台数は前回予想をさらに5.3%下回ると予想しております。

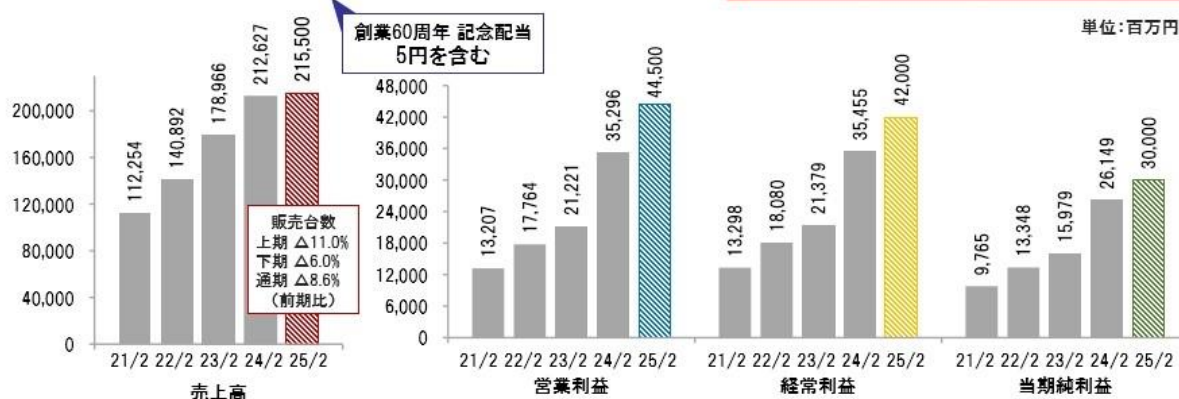
この結果、通期の連結売上高は前回予想を下回る見込みですが、海上運賃が想定を下回ったこと、および為替影響により、各段階利益は前回予想を上回ると見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結業績予想ハイライト (2025年2月期・通期予想)

単位:百万円	2024年2月期		2025年2月期					
	通期	売上比率	上期実績	下期予想	通期予想	売上比率	増減額	増減率
■ 売上高	212,627	—	109,606	105,893	215,500	—	+2,872	+1.4%
■ 営業利益	35,296	16.6%	24,867	19,632	44,500	20.6%	+9,203	+26.1%
■ 経常利益	35,455	16.7%	23,187	18,812	42,000	19.5%	+6,544	+18.5%
■ 当期純利益 <small>親会社株主に帰属する</small>	26,149	12.3%	16,854	13,145	30,000	13.9%	+3,850	+14.7%
設備投資額	8,070	3.8%	1,397	4,007	5,404	2.5%	△2,666	△33.0%
減価償却費	3,321	1.6%	1,807	2,147	3,954	1.8%	+632	+19.0%
1株純利益	548.58円	配当性向 28.8%	353.58円	—	629.36円	配当性向 31.8%	+80.78円	+14.7%
1株配当金	158.00円		—	—	200.00円		+42.00円	+26.6%

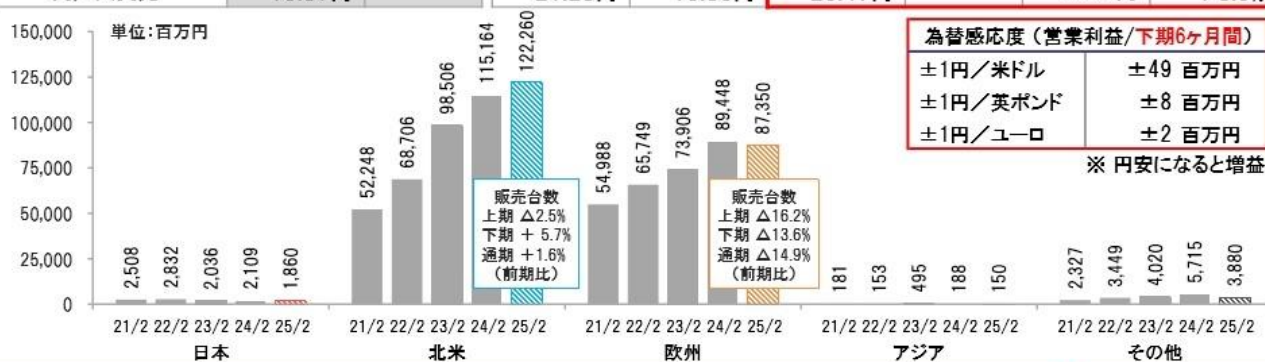


12 ページをご覧ください。通期の業績予想ハイライトです。

対前期比で当社グループ全体の販売台数は通期で 8.6%減少し、売上高は 1.4%増加の 2,155 億円、営業利益は 26.1%増加の 445 億円、経常利益は 18.5%増加の 420 億円、当期純利益は 14.7%増加の 300 億円と予想し、売上高、利益ともに過去最高となると予想しております。

地域別売上高予想 (2025年2月期・通期予想)

単位:百万円	2024年2月期		2025年2月期					
	通期	構成比	上期実績	下期予想	通期予想	構成比	増減額	増減率
日本	2,109	1.0%	985	874	1,860	0.9%	△249	△11.8%
北米	115,164	54.2%	62,906	59,353	122,260	56.7%	+7,095	+6.2%
欧州	89,448	42.1%	43,745	43,604	87,350	40.5%	△2,098	△2.3%
アジア	188	0.1%	49	100	150	0.1%	△38	△20.6%
その他	5,715	2.7%	1,919	1,960	3,880	1.8%	△1,835	△32.1%
売上高合計	212,627	100.0%	109,606	105,893	215,500	100.0%	+2,872	+1.4%
円/米ドル	143.25円	—	154.54円	138.00円	147.54円	—	+4.29円	+3.0%
円/英ポンド	177.55円	—	197.73円	179.00円	188.03円	—	+10.48円	+5.9%
円/ユーロ	155.05円	—	166.48円	152.00円	159.71円	—	+4.66円	+3.0%
円/人民元	19.87円	—	21.25円	19.30円	20.47円	—	+0.60円	+3.0%



13

© 2024 Takeuchi Manufacturing [JAPAN], Ltd. All Rights Reserved.

TAKEUCHI

13 ページをご覧ください。通期の地域別売上高予想をご説明いたします。

前期と比較した通期の販売台数は、欧州では14.9%の減少となり、下期も上期と同程度の需要を見込んだことで、大幅な減少を予想いたします。

一方、北米では1.6%の微増を予想しております。これは買入部品の不具合があったことにより、一部出荷が下期にずれ込んだことと、より積極的な販促活動を展開することで、上期の販売台数を上回ると見込んだことによるものです。

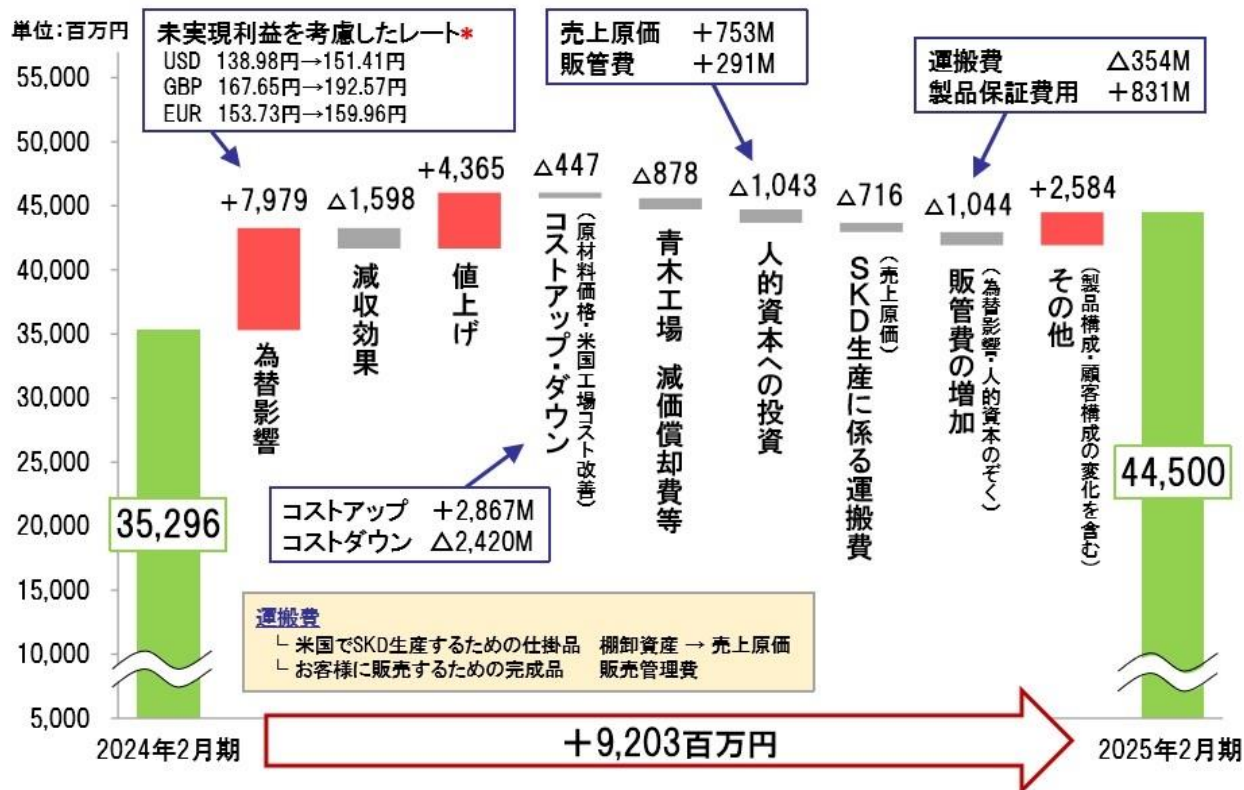
なお、営業利益における下期6ヶ月間の為替感応度は、米ドルが4,900万円、ポンドが800万円、ユーロが200万円と予想しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally

営業利益増減要因 (2025年2月期・通期予想)



* 未実現利益を考慮したレート: 日本から米英仏の販売子会社への輸送・在庫期間を考慮したレート

14 ページをご覧ください。連結営業利益の通期予想の増減要因をご説明いたします。

増益要因としましては、為替影響で 79 億 7,900 万円、売価の値上げで 43 億 6,500 万円、製品構成と顧客構成の変化などの影響を含むその他の要因で 25 億 8,400 万円を見込んでおります。

また減益要因では、販売台数の減少による減収効果で 15 億 9,800 万円、原材料価格の上昇等のコストアップで 4 億 4,700 万円、青木工場の減価償却費等で 8 億 7,800 万円、人的資本への投資としての主に人件費の引き上げで 10 億 4,300 万円、米国でのセミノックダウン生産に係る運搬費の増加で 7 億 1,600 万円、製品保証引当金増加の 8 億 3,100 万円を含む販管費の増加で 10 億 4,400 万円を見込んでおります。

以上により、連結営業利益は 92 億 300 万円増加し、445 億円になると予想しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

設備投資計画

単位:百万円



◇2024年2月期 設備投資の主な内訳

本社	11億円	治具、金型、試作機、設備の維持更新
青木工場	50億円	当期: 50億円、前期まで: 60億円
社員寮	9億円	本社工場、青木工場の隣地に2棟
竹内US	10億円	太陽光パネル (TUS本社・米国工場) 生産設備・塗装設備 (米国工場)
合計	80億円	

◇2025年2月期 設備投資計画の主な内訳

本社 青木工場	35億円	治具、金型、設備の維持更新 13億円 本社パーツセンター 設備更新、建物増設 10億円 工場の設備増設、生産合理化 8億円 安全強化、職場環境の改善 4億円
社員寮	7億円	長野県上田市に1棟
竹内US	5億円	米国工場の設備増設、販促強化、IT投資
その他	7億円	
合計	54億円	

2021年2月期 Takeuchi US 倉庫増築(約5.4億円) 2022年2月期 USTレーニングセンター(約5億円)



2023年2月期 米国工場(約47億円)



2024年2月期 青木工場(約110億円)



15 ページをご覧ください。設備投資計画をご説明いたします。

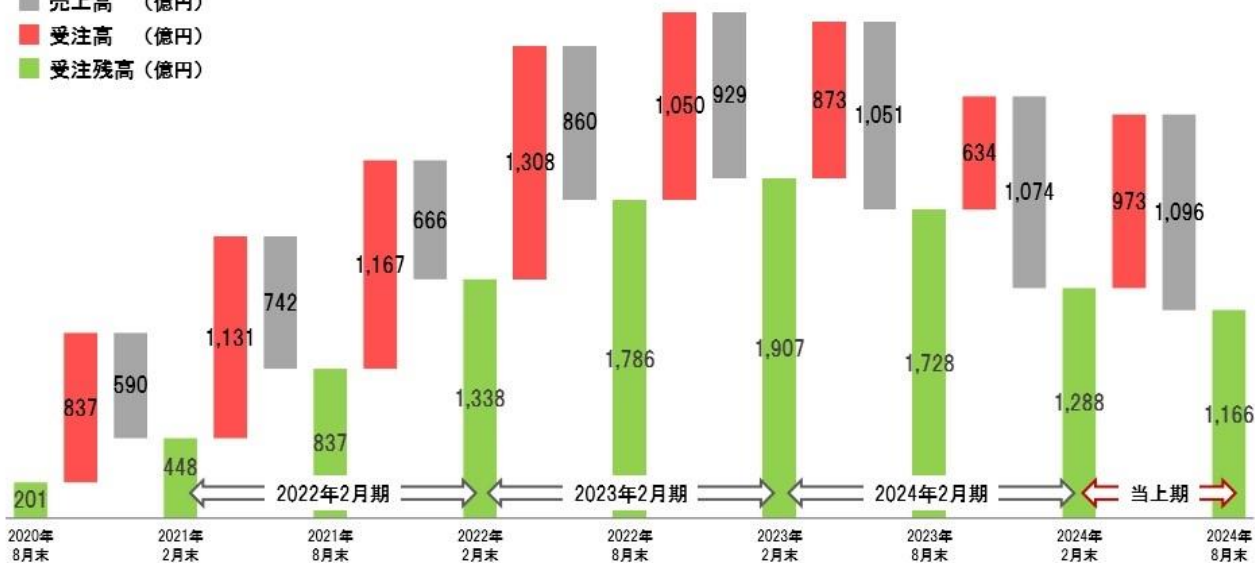
2025年2月期の設備投資につきましては、54億400万円を見込んでおります。その主な内訳としましては、本社工場および青木工場での設備の維持更新やパーツセンターの増設等で約35億円、社員寮の建設工事で約7億円、米国子会社での設備増強等で約5億円などを見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

売上高、受注高、受注残高

■ 売上高 (億円)
■ 受注高 (億円)
■ 受注残高 (億円)



(単位:億円)	2022年2月期				2023年2月期				2024年2月期				2025年2月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	333	408	326	339	424	436	468	460	530	521	536	537	551	544
受注高	601	529	635	531	665	642	470	579	476	396	382	252	615	357
受注残高	717	837	1,147	1,338	1,580	1,786	1,788	1,907	1,853	1,728	1,574	1,288	1,352	1,166

続きまして、トピックスについてご説明させていただきます。17 ページをご覧ください。まず受注高と受注残高についてのご説明です。

下段の表の右端にお示ししているように、当上期は米国の大手レンタル会社からの従来の受注タイミングが前期末から当期初にずれ込んだ影響で、第1四半期の受注高は615億円を確保しましたが、第2四半期では357億円にとどまりました。

また、第2四半期末における受注残高は1,166億円となりましたが、この内訳は米国が約900億円、欧州が約250億円となっております。これを今期の各地域の売上高予想を前提にして、月商ベースでご説明しますと、米国の受注残高は約9ヶ月分、欧州の受注残高は約3.5ヶ月分となります。

当社が認識している正常レベルの受注残高の水準はおおむね3~4ヶ月であることからすると、米国の受注残高はまだ多く積み上がっているレベルであり、欧州はおおむね正常な水準に戻ったと見ております。したがって今後につきましては、受注残高が正常化した欧州では実需に対応した

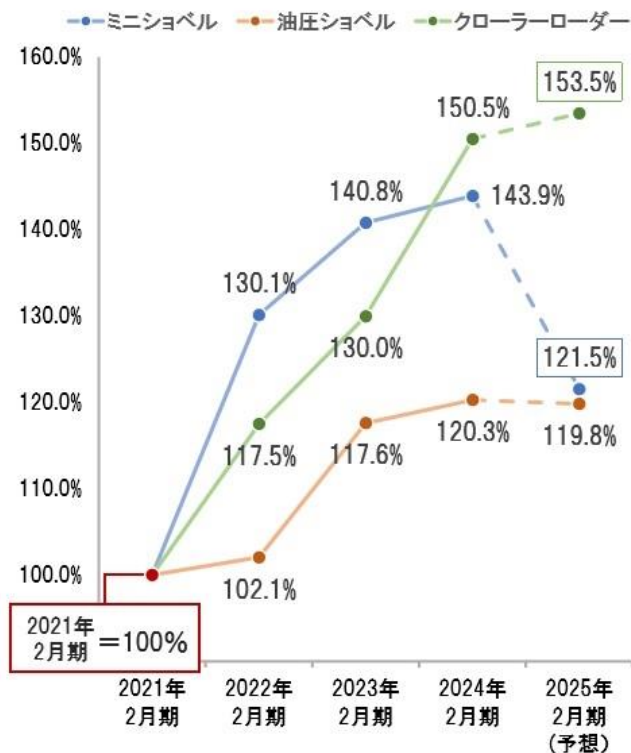
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ご注文をいただく通常サイクルとなり、米国では受注残高が正常化するまで、もうしばらくは販売が受注を上回るペースで推移するものと予想しております。

製品別の販売状況 (ミニ&油圧ショベル、クローラーローダー)

▶ 販売台数の伸長率の推移 (グループ合計)



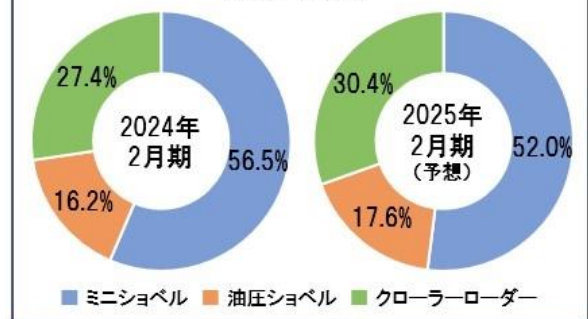
▶ ミニショベル

- 欧州での主力製品
個人消費の低迷、住宅金利の高騰等により、欧州での販売が減速 (特に3トン以下)
- 北米のミニショベル販売は堅調であり、前期 (2024年2月期)の台数を上回る見込み

▶ クローラーローダー

- 北米での主力製品
当社グループのクローラーローダーの大部分は北米で販売されている
- 徐々に欧州でも販売が伸び始めている

製品別販売台数の割合 (グループ合計)



18 ページをご覧ください。こちらのページでは、製品別の販売状況についてご説明いたします。

ここでお示ししている折れ線グラフは、2021年2月期を100%とした場合のミニショベル、油圧ショベル、クローラーローダーの販売台数の伸長率の推移です。

ご覧の通り、前期からクローラーローダーの伸び率がミニショベルのそれを上回り、急成長をいたしました。また右下の円グラフは、製品別の販売台数割合ですが、今期の通期予想では、ミニショベルの落ち込みを補うようにクローラーローダーの割合が増えております。

まず、販売台数が圧倒的に多いミニショベルの状況ですが、今期は主力市場の欧州で減速しています。これは物価上昇等による個人消費の低迷や、住宅ローン金利の高騰に伴う住宅需要の押し下げなどの影響と見ておりますが、この状況が改善に向かうのはまだ先と見ており、欧州でのミニショベルの販売はしばらくは厳しいと見込まざるを得ない状況です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

一方、北米でのミニショベルの販売は堅調で、前期の販売台数を上回ると見込んでおりますが、加えて、北米での主力製品であるクローラーローダーも力強さを維持しております。さらに、従来は北米がメインマーケットであったクローラーローダーの需要が、欧州でも徐々に上向き、販売が伸び始めています。

米国では9月に金利の引き下げが行われ、住宅ローン金利も低下傾向にあり、今後、新大統領の経済政策が明らかになれば住宅需要が息を吹き返し、2025年に繰り越し需要として顕在化し、拡大する可能性は高いと考えております。

したがって、今後は成長性で有望なクローラーローダーを、米国のみならず欧州においても販売拡大を目論んで、来期以降のプランニングを進めてまいりたいと考えております。

クローラーローダーの特長

ミニ/油圧ショベルは掘削作業が得意

クローラーローダーは、運搬・整地作業を得意とする

- ✓ 当社が世界初のクローラーローダーを開発、生産開始（1986年9月）
- ✓ 建設機械業界では、コンパクトトラックローダー（CTL）と呼ばれている

① ミニショベル/油圧ショベルより移動速度が速い



② 主に米国で普及

工事現場が広大である場合が多い米国では、建設機械の分業により効率を上げられる

- ✓ 掘削作業
→ ミニショベル、油圧ショベル
- ✓ 運搬作業・整地作業
→ 移動速度が速いクローラーローダーの方が効率的

19 ページをご覧ください。今後、より成長性が期待できるクローラーローダーの製品の特徴についてご説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

まず、当社がミニショベルに次いで世界に先駆けて開発し、市場投入したクローラーローダーは、建設機械業界ではコンパクトトラックローダー、略してCTLと呼ばれておりますが、ここでの説明では、単にローダーという呼び方でお話しさせていただきます。

一つ目の特徴ですが、ローダーを市場投入した当初は、主にミニショベルや油圧ショベルが掘削作業を行って掘り出した土砂を別の場所に運搬する作業や、掘り返した場所を整地する作業での使用を目的としたため、粘土質のようなぬかるんだ地面でも素早く走行できる性能を有しているところです。

二つ目の特徴は、ローダーが主に米国で普及していることが背景になりますが、面積が広い工事現場が多い米国でショベルとローダーがそれぞれの特徴を生かして、これらが連携して土木作業を効率的に行えるメリットがあるところです。

ちなみに比較的狭いエリアでの土木作業を強いられる日本や欧州の市街地では、ローダーが土砂を運搬する余地がないことから、ミニショベルが掘削、運搬、整地など全ての作業を受け持ってきました。これが、これまでローダーのメインマーケットが米国であった主たる理由です。

クローラーローダーの特長

③ アーム先端のアタッチメントを交換することで、様々な作業が可能

→ 建設現場のみならず、農作業、森林整備、造園などマルチに使用できる



サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

20 ページをご覧ください。三つ目の特徴は、アタッチメントを交換することで、建設現場のみならず、マルチに使用できることです。

ここに掲載した画像からお気づきになるかと思いますが、ローダーが運搬する対象物は土砂の他に、草木や重量物などもあることから、この製品をお使いになるエンドユーザー様は、土木工事以外でもご使用になるということです。このエンドユーザー層の裾野の広さは、ローダーの拡販にとっては大きな強みだと考えております。

ご参考までに、右上には太陽光パネルをローダーが運んでいる画像がありますが、このように、脱炭素社会への実現に向けた新たな機器の設置や設備工事の需要が今後増えてくると考えており、ローダーだけでなく、ショベルの販売にとっても追い風となるものと考えております。

クローラーローダーの特長

④ 災害現場の復興作業(がれき除去等)でも活躍



21 ページをご覧ください。四つ目の特徴は、災害現場の復興作業でも活躍できる性能を有しているところです。

改めまして、本年元旦の能登半島地震、さらに9月21日の能登半島豪雨で被災された皆様には、慎んでお見舞い申し上げます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

当社からは復興支援のため、自治体からの許可をいただいた直後にローダーとミニショベル、またこれら进行操作するオペレーターを現場に派遣いたしました。今後の早期復興が実現できますことを心より願っております。

ローダーのご説明に戻りますが、復興支援に際しては、これらの画像からおわかりいただけるように、がれきや津波で打ち上げられた船舶や車両をつかみ、持ち上げ、除去したり運搬する作業で使用されました。過去においては、米国でのハリケーンや山火事などの被災地においても、同様の使用目的で活躍した実績を残しております。

欧州市場の状況（ドイツ展示会@ニュルンベルク、9月11日～9月14日）



- ✓ 朝9:00のオープンと同時に、多くのお客様が当社ブースを訪れていた
(プレミアム製品と位置づけられる当社製品を見たい、触れたいお客様でブースは盛況)
- ✓ エンドユーザーの仕事は減っていない
- ✓ コロナ後の製品不足の際に、ディーラーは余分に製品を購入したため、今は在庫調整期間
- ✓ ドイツの建機市場では、3トン未満の小型ショベルが低迷しているが、4トン以上は堅調に推移

22 ページをご覧ください。先行きが見通しづらい欧州ですが、9月にドイツ国内でディストリビューターが出展した展示会の様子についてお知らせしておきます。

今回の展示会には、より認知度を上げて拡販に繋げるため、初めてローダーも展示いたしました。潜在需要を掘り起こす目的で、来場者の関心を引くことを狙って、森林整備で使用されるマルチャーと称する草刈り機のアタッチメントを装着したローダーを展示いたしました。このページに貼り

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

付けたリンク先にアクセスしていただきますと、ローダーとマルチャーを組み合わせた作業の様子をご覧くださいので、後ほどご覧いただけたら幸いです。

下段の箇条書きは、当展示会に出展したディストリビューターが来場者から直接聞き取った市場情報ですが、その中のエンドユーザーの仕事は減っていないとの情報は、非常に心強いポジティブな情報だと思っております。

欧州市場の状況（ドイツ展示会@ニュルンベルク、9月11日～9月14日）

屋外のデモンストレーションエリア

- ✓ アタッチメントを交換したデモを披露
- ✓ 製品本体の特長だけでなく、当社製品の拡張性・多用途性をアピール



掴む・離す・回転させるといった複雑な動きをするアタッチメントを操作するには、油圧サービス系統が充実した建設機械が必要となる。

23 ページをご覧ください。これは今ご説明した、展示会場の屋外でのミニショベルのアタッチメント交換のデモンストレーションの様子です。

当社のミニショベルには、様々なアタッチメントが装着可能な機種を取り揃えております。地面を掘削するための標準のバケットを取り外して、この画像にあるように材木をつかんで回転させて、置き場所を変えることのできる別のアタッチメントを、運転席から降りずに油圧の操作だけで付け替える実演を行って、当製品の優位性、拡張性、多用途性などもアピールいたしました。

サポート

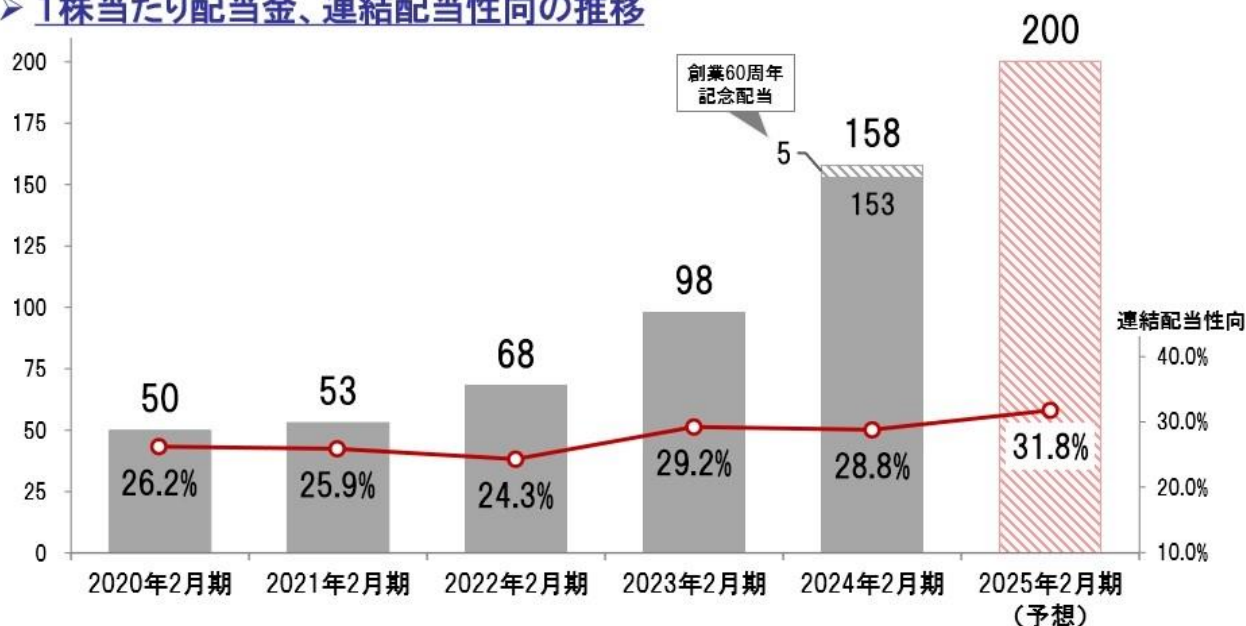
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

株主還元、連結配当性向

基本方針： 経営体質の強化並びに今後の事業展開に必要な内部留保を確保しつつ、**連結配当性向30%を目安**として、安定した配当の継続に努める。

自己株取得： 株価水準や資本効率等を勘案のうえ、**自己株式の取得**を適宜実施する。

▶ 1株当たり配当金、連結配当性向の推移



24 ページをご覧ください。株主還元と連結配当性向に関するご説明をさせていただきます。

現行の基本方針といたしましては、連結配当性向 30%を目安として、安定した配当の継続に努めるとの方針のもと、当社グループの財政状態と業績予想を勘案し、今期の期末配当予想を期初の予想通りの1株当たり200円としております。

自己株式の取得

基本方針： 経営体質の強化並びに今後の事業展開に必要な内部留保を確保しつつ、**連結配当性向30%を目安**として、安定した配当の継続に努める。

自己株取得： 株価水準や資本効率等を勘案のうえ、**自己株式の取得**を適宜実施する。

▶ 自己株式の取得に係る事項を取締役会で決議（2024年10月10日）

取得し得る株式総数	上限 200万株 発行済株式総数に対する割合 4.2%(自己株式を除く)
取得価額の総額	上限 70億円
取得期間	2024年10月11日から2025年1月31日まで
取得理由	現行の株主還元方針のもと、株価水準や資本効率等を勘案し、株主の皆様への一層の利益還元を行うため、自己株式の取得を行うもの

ご参考

- ✓ 発行済株式総数（自己株式を除く） 47,744,971株（2024年9月30日現在）
- ✓ 自己株式数 1,254,029株（2024年9月30日現在）

続きまして 25 ページをご覧ください。

当社の認識としましては、最近の当社の株価水準は割安と考えております。したがって、この度、株主還元方針に基づき、当社にご支援いただいている株主の皆様のご期待にお応えするため、ご覧の通り自己株式の取得を決定し、取得期間内での自己株式の取得を実施しているところでございます。

どうか株主の皆様におかれましてはご理解をいただき、引き続きご支援を賜りたく、この場をお借りしてお願い申し上げます。以上をもちまして、当第2四半期決算のご説明とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

[了]

脚注

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

